

職業実践専門課程等の基本情報について

| | | | | | | | | | | |
|------------------------------|--------|---|---------------------|------------------|--------------|--|------------|----------|--------------|--------|
| 学校名 | | 設置認可年月日 | | 校長名 | | 所在地 | | | | |
| 修成建設専門学校 | | 昭和51年4月1日 | | 見邨 佳明 | | 〒 555-0032 (住所) 大阪市西淀川区大和田5-19-30 (電話) 06-6474-1644 | | | | |
| 設置者名 | | 設立認可年月日 | | 代表者名 | | 所在地 | | | | |
| 学校法人修成学園 | | 昭和51年4月1日 | | 山下 裕貴 | | 〒 555-0032 (住所) 大阪府大阪市西淀川区大和田5-19-30 (電話) 06-6474-1644 | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | | 認定学科名 | | 専門士認定年度 | | 高度専門士認定年度 | | 職業実践専門課程認定年度 | |
| 工業 | 工業専門課程 | | 第1本科(昼)建築デンタルデザイン学科 | | 平成 7(1995)年度 | | - | | 平成26(2014)年度 | |
| 学科の目的 | | 人間の生活空間を作り上げる建築は、設計分野と施工分野に大別されるが、現代の設計分野に求められている人材のひとつに、「BIM・等を活用した」設計意図の構築や図面表現など、そのスキルが高い者が挙げられる。それはデザインプロセスを目に見える形で円滑に進め、建築物の完成までに関わる多くの人との合意形成に大きな役割を果たしていく存在として、設計業界の今後において欠かすことができないものとなる。 本学科は、建築の基礎知識の修得と、BIM・AR・VRなどの建築ビジュアライゼーションスキルを養成する演習授業を連携させ、計画力と表現力に加え、その伝達力を磨くことを目標としている。 | | | | | | | | |
| 学科の特徴(取得可能な資格、中退率 等) | | 在籍2年間に、パス検定・商業施設士・福祉住環境コーディネーター・カラーコーディネーターの資格取得を、自らの進路目標に合わせて選択し挑戦する。また、本学科は卒業と同時に一級建築士・二級建築士の受験資格が得られる。 卒業後、内部進学する者は専科2級建築士科、または働きながら試験に挑む者に向けては、二級建築士試験対策講習会が準備されており、学科試験・製図試験にむけて、進路別に支援体制を整えている。 | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | |
| 2年 | 昼間 | ※単位時間、単位いずれかに記入 | | | 1,792 単位時間 | 1,610 単位時間 | 694 単位時間 | 304 単位時間 | 0 単位時間 | 0 単位時間 |
| | | | | | 単位 | 単位 | 単位 | 単位 | 単位 | 単位 |
| 生徒総定員 | | 生徒実員(A) | | 留学生数(生徒実員の内数)(B) | | 留学生割合(B/A) | | 中退率 | | |
| 60 人 | | 65 人 | | 16 人 | | 0 % | | 10 % | | |
| 就職等の状況 | | ■卒業者数(C) : 20 人 | | | | | | | | |
| | | ■就職希望者数(D) : 14 人 | | | | | | | | |
| | | ■就職者数(E) : 14 人 | | | | | | | | |
| | | ■地元就職者数(F) : 5 人 | | | | | | | | |
| | | ■就職率(E/D) : 100 % | | | | | | | | |
| | | ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 36 % | | | | | | | | |
| | | ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 70 % | | | | | | | | |
| | | ■進学者数 : 5 人 | | | | | | | | |
| | | ■その他 | | | | | | | | |
| | | (令和 6 年度卒業生に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報) | | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | | ■民間の評価機関等から第三者評価: 有 | | | | | | | | |
| | | ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人 専門職高等教育質保証機構 受審年月: 2018年2月1日 評価結果を掲載したホームページURL: https://qaphe.com/result/techgraduate/syusei/syuseiyear2017/ | | | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | | https://www.syusei.ac.jp/course/dept_cg/ | | | | | | | | |
| 企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入) | | (A: 単位時間による算定) | | | | | | | | |
| | | 総授業時数 | | | | | 1,792 単位時間 | | | |
| | | うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 | | | | | 582 単位時間 | | | |
| | | うち企業等と連携した演習の授業時数 | | | | | 320 単位時間 | | | |
| | | うち必修授業時数 | | | | | 1,504 単位時間 | | | |
| | | うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 | | | | | 512 単位時間 | | | |
| | | うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 | | | | | 320 単位時間 | | | |
| | | (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) | | | | | 80 単位時間 | | | |
| | | (B: 単位数による算定) | | | | | | | | |
| | | 総単位数 | | | | | 0 単位 | | | |
| うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数 | | | | | 〇〇 単位 | | | | | |
| うち企業等と連携した演習の単位数 | | | | | 〇〇 単位 | | | | | |
| うち必修単位数 | | | | | 〇〇 単位 | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数 | | | | | 〇〇 単位 | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の演習の単位数 | | | | | 〇〇 単位 | | | | | |
| (うち企業等と連携したインターンシップの単位数) | | | | | 〇〇 単位 | | | | | |
| 教員の属性(専任教員について記入) | | ① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号) | | | | | 1 人 | | | |
| | | ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) | | | | | 1 人 | | | |
| | | ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) | | | | | 0 人 | | | |
| | | ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) | | | | | 1 人 | | | |
| | | ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) | | | | | 0 人 | | | |
| | | 計 | | | | | 3 人 | | | |
| | | 上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 | | | | | 3 人 | | | |

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
企業等の要請を十分に生かしつつ職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するため、教育課程の編成において、当該企業等との密接な連携により、より実践的な職業教育の質の確保のため組織的に取り組む。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、本校の職業教育の質の確保を目指す。
(1)就職先の業界における人材の専門性に関する動向の把握・分析
(2)国又は地域の産業振興の方向性の把握・分析
(3)新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能など把握・分析

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

| 名 前 | 所 属 | 任期 | 種別 |
|-------|---------------------|------------------------|----|
| 倉方 俊輔 | 大阪公立大学大学院 教授 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | ② |
| 西濱 浩次 | 株式会社コンパス建築工房 代表取締役 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | ③ |
| 内倉 悠 | 株式会社ブルーラルスタジオ 取締役 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | ② |
| 田中 義久 | 公益社団法人大阪府建築士会 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | ① |
| 湯浅 桂輔 | 一般社団法人大阪府建築士事務所協会 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | ① |
| 岸下 真理 | 公益社団法人日本建築家協会 近畿支部 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | ① |
| 森上 恒 | 一般社団法人日本建築材料協会 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | ① |
| 小池 祐也 | 公益社団法人日本建築積算協会 関西支部 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | ① |
| 中村 裕輔 | 日本商環境デザイン協会関西支部 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | ① |
| 作本 博昭 | 株式会社日本確認検査センター | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | ③ |
| 小林 希 | ALLAGI株式会社 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | ③ |
| 井上 哲史 | 三和建設株式会社 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | ③ |
| 吉松 吾朗 | 山崎建設株式会社 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | ③ |
| 山内 裕輔 | 株式会社NIPPO 関西支店 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | ③ |
| 榎村 吉高 | 株式会社 荒木造園設計 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | ③ |
| 田邊 晋治 | 阪神園芸株式会社 | 令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年) | ③ |

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (11月、2月)

(開催日時(実績))
第1回 令和6年11月14日 18:00 ～ 20:00
第2回 令和7年2月15日 16:30 ～ 17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育の質を向上させるため、産官学連携プロジェクトの意見を積極的に活用した。これにより、教育課程の編成に加え、演習・実習、教員研修等に企業等が参画する包括的な連携体制を構築することができた。

また、特定の委員会に限定されることなく、多岐にわたる企業との連携プロジェクトや、実務経験者による講義を導入したことで、常に最新の業界動向を教育課程に機能的に反映させている。

このような実践的な取り組みは、学生の職業能力を確実に養成するために不可欠であり、その活用状況を明確にすることで、社会的な信頼性を向上させていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を習得・向上するとともに、授業及び学生に対する指導力等の向上を目標としている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

最新の施工技術や安全管理体制を直接ご覧いただける見学会を定期的に開催する。

建設機械の運転資格など、専門スキル習得を全面的にバックアップする。

近隣の公園および企業敷地内の植栽管理を継続し、地域の緑化推進に貢献する。

学生を対象としたインターンシップを積極的に行い、業界の魅力とやりがい伝える。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科 目 名 | 企業連携の方法 | 科 目 概 要 | 連 携 企 業 等 |
|-----------|----------------------------|---|----------------|
| 建築製図 | 1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 | 製図の基礎、木造、木造3階建住宅、鉄骨造、鉄筋コンクリート造 | 昇設計室 他 |
| 建築実験実習 | 2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当 | セメント、骨材、コンクリート、鉄筋、木材、ボルト接合の材料力学性能 | 和光設計他 |
| 建築積算学・同演習 | 2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当 | 建築工事に必要な直接工事費、間接工事費の算出方法 | 日本建築積算協会 |
| 建築設計製図 | 2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当 | 各科目で学習した知識を応用して、設計に必要な考察力及び、設計図書作成に必要な能力を養う | 日本建築家協会近畿支部他 |
| BIM設計 | 2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当 | BIMの操作実習、図面作成力を養う | 鈴木佑輔建築設計事務所設立他 |

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人修成学園就業規則 第9章 第59条」の研修規定に従い、企業等の専門講師を招聘した教員向け実務研修として、最新の知識・技術・工法等に関する学内教育研修会を開催するとともに、各種団体主催の研修会・セミナーへの参加促進、大学等高等教育機関における研修・研究会への派遣等を通じて、職業関連分野の実務知識・技術・工法の習得、および教授技法・指導技能・キャリア教育支援能力等の向上を目的とした研修機会に意欲的に参加させている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

| | | | |
|------|-------------------------|--------|------------------|
| 研修名: | 大阪府被災建築物応急危険度判定士講習会 | 連携企業等: | 一般財団法人大阪建築防災センター |
| 期間: | 2025年8月22日 | 対象: | 教員 |
| 内容 | 災害に伴う建物の応急危険度判定制度 | | |
| 研修名: | 重点監理の範囲と責任 | 連携企業等: | 日本建築家協会 |
| 期間: | 2025年2月5日 | 対象: | 教員 |
| 内容 | 設計監理における重点監理の内容及び責任について | | |

②指導力の修得・向上のための研修等

| | | | |
|------|--------------------------|--------|-----------------|
| 研修名: | 「学生との向き合い方」を考える | 連携企業等: | 大阪市キャリア教育支援センター |
| 期間: | 2024年7月20日 | 対象: | 教員 |
| 内容 | 学生との信頼関係を構築する他 | | |
| 研修名: | 留学生への教育指導について(～事例報告から学ぶ) | 連携企業等: | 修成学園 |
| 期間: | 2025年2月25日 | 対象: | 教員 |
| 内容 | 留学生の教育指導他 | | |

| | | |
|--------------------|---------------------------------|------------------------|
| (3) 研修等の計画 | | |
| ①専攻分野における実務に関する研修等 | | |
| 研修名: | 基本計画段階の概算 | 連携企業等: 日本建築積算協会関西支部 |
| 期間: | 2025年5月25日 | 対象: 教員 |
| 内容 | 概算コスト算出や、概算算出の注意点等 | |
| 研修名: | 大阪府左官業人材育成・支援協議会 | 連携企業等: 大阪府左官工業組合 |
| 期間: | 2025年5月20日 | 対象: 教員 |
| 内容 | 業界の人手不足の状況や急増する外国人労働者の雇用状況等 | |
| 研修名: | DIY木の学校・【専門科目】家具づくり | 連携企業等: 一般社団法人住環境教育協会 |
| 期間: | 2025年12月6日 | 対象: 教員 |
| 内容 | 古民家と付属建物をDIY | |
| ②指導力の修得・向上のための研修等 | | |
| 研修名: | 自己肯定感とモチベーションを高める学生指導 | 連携企業等: 大阪市キャリア教育支援センター |
| 期間: | 2025年7月26日 | 対象: 教員 |
| 内容 | 自己肯定感を高めるための指導ほか | |
| 研修名: | 多文化共生とは | 連携企業等: 学校法人修成学園 |
| 期間: | 2025年9月26日 | 対象: 教職員 |
| 内容 | 留学生と日本人学生の共創を促すために、私たち教職員ができること | |

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
委員会が、自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果を公表することにより、適切に説明責任を果たすとともに、学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと専修学校との連携協力による特色のある学校づくりを進める。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|---------------|-------------------|
| (1)教育理念・目標 | 基準1 教育理念・目標・育成人材像 |
| (2)学校運営 | 基準2 学校運営 |
| (3)教育活動 | 基準3 教育活動 |
| (4)学修成果 | 基準4 学修成果 |
| (5)学生支援 | 基準5 学生支援 |
| (6)教育環境 | 基準6 教育環境 |
| (7)学生の受入れ募集 | 基準7 学生の募集と受け入れ |
| (8)財務 | 基準8 財務 |
| (9)法令等の遵守 | 基準9 法令等の遵守 |
| (10)社会貢献・地域貢献 | 基準10 社会貢献 |
| (11)国際交流 | 基準10 社会貢献 |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
今年度の学校関係者評価委員会では、卒業生の社会適応能力、学生の精神的健康、防災意識の向上、そして学校理念の情報発信について、貴重なご意見をいただきました。これらのご意見を真摯に受け止め、本校は以下の取り組みを進めます。グループワークや行事を通じた実践的指導、専門スタッフと連携したサポート体制の強化、全教職員対象の防災訓練の実施、そして学校ウェブサイトの改善です。今後も、より質の高い教育環境を追求してまいります。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

| 名 前 | 所 属 | 任期 | 種別 |
|-------|-------------------------|----------------------------|-------------|
| 丸山 徹 | 株式会社ウエルネスサプライ 営業推進室 | 令和7年4月1日～令和9年3月 31日(2年) | 卒業生の保 護者 |
| 相賀 勝 | 元吹田市理事 | 令和7年4月1日～令和9年3月 31日(2年) | 同窓会会長 |
| 藤田 晴樹 | 株式会社ジェイネット 代表取締役 | 令和7年4月1日～令和9年3月 31日(2年) | 企業等委員 |
| 市岡 武 | 村本建設株式会社 常任顧問 | 令和7年4月1日～令和9年3月 31日(2年) | 企業等委員 |
| 大槻 憲章 | NPO法人 おおさか緑と樹木の診断協会 理事長 | 令和7年4月1日～令和9年3月 31日(2年) | 企業等委員 |
| 田中 文雄 | 大和田振興町会 会長 | 令和7年4月1日～令和9年3月 31日(2年) | 自治会役員 |
| 若浦 直樹 | 神港学園高等学校 校長 | 令和7年4月1日～令和9年3月 31日(2年) | 教育関係者 |
| 壺山 和憲 | 壺山建設株式会社 取締役社長 | 令和7年4月1日～令和9年3月 31日(2年) | 企業等委員 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.syusei.ac.jp/jyoho/>

公表時期: 令和7年2月下旬

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の概要、目標及び計画や学科の教育をはじめとする様々な情報をホームページだけでなく学校案内、募集要項、求人パンフレット等の刊行物により積極的に公開することとする。
教育課程編成委員会学ならび校関係者評価委員会にも配布・公開し、理解と助言を求めている。教育の質保証、教育の見える化を図ることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|--------------------|------------------|
| (1) 学校の概要、目標及び計画 | 学校の概要、人材育成像、育成計画 |
| (2) 各学科等の教育 | 学科の教育 |
| (3) 教職員 | 組織及び教職員の状況 |
| (4) キャリア教育・実践的職業教育 | キャリア教育、実践的職業教育 |
| (5) 様々な教育活動・教育環境 | 様々な教育活動・教育環境 |
| (6) 学生の生活支援 | 学生の生活支援 |
| (7) 学生納付金・修学支援 | 学生納付金・修学支援 |
| (8) 学校の財務 | 学校の財務 |
| (9) 学校評価 | 学校評価 |
| (10) 国際連携の状況 | 様々な教育活動・教育環境 |
| (11) その他 | その他 |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.syusei.ac.jp/jyoho/index.html>

公表時期: 2025年7月1日

授業科目等の概要

| #REF! | 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配 当 年 次 ・ 学 期 | 授 業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
|-------|--------|------------------|------------------|--------------------|---|---------------------------------|------------------|-------------|--------|--------|----------|--------|--------|--------|--------|---------|
| | 必 修 | 選 択 必 修 | 自 由 選 択 | | | | | | 講 義 | 演 習 | 実験・実習・実技 | 校 内 | 校 外 | 専 任 | 兼 任 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | ○ | | | 建築設計製図 | 各種建築物の計画・設計 | 2 | 192 | 6 | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |
| 2 | ○ | | | BIM設計 | BIMの操作実習、図面作成力を養う | 2 | 64 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | ○ |
| 3 | ○ | | | 建築計画学 | 設計に必要な、住居建築物の計画、特定建築物の計画 | 1 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 4 | ○ | | | 建築歴史 | 建築の発生から発展、構造・様式などの歴史を通じて、学生が建築技術者として必要な常識を養う | 1 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 5 | ○ | | | 建築環境工学 | 環境工学概要、日照と日射、室内熱環境、室内空気環境、室内照明環境、室内音環境 | 2 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 6 | ○ | | | 建築設備工学 | 給排水設備、衛生設備、空気調和設備、電気設備 | 2 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 7 | ○ | | | 建 築 構 造 力 学・同演習 | 一般事項、力の釣合条件、静定構造物の応力、部材応力と変形、静定構造物の変形、不静定構造物の解法 | 1 | 128 | 6 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| 8 | ○ | | | 建築一般構造学 | 各種構造の地震や台風等に対処する仕組、構成を学ぶ | 1 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 9 | ○ | | | 建築材料学 | 建築に使用する素材別材料、用途別材料 | 1 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 10 | ○ | | | 建築実験実習 | セメント、骨材、コンクリート、鉄筋、木材、ボルト接合の材料力学性能 | 1 | 32 | 1 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 11 | ○ | | | 建築施工 | 建築工事の請負制度、契約および工事全般 | 1 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---------------|--------------------------------------|---|-----|---|---|---|--|---|--|---|---|
| 12 | ○ | | 建築積算学・同演習 | 建築工事に必要な直接工事費、間接工事費の算出方法 | 2 | 64 | 3 | ○ | △ | | ○ | | ○ | ○ |
| 13 | ○ | | 建築法規 | 建築基準法の単体・集団規定、制度規定、関連法規 | 2 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | |
| 14 | ○ | | IT・BIM基礎・同演習 | 課題に応じたデジタルレポート作成、CAD、BIM基礎 | 1 | 128 | 5 | △ | ○ | | ○ | | ○ | |
| 15 | ○ | | CG演習 | CAD応用、BIM基礎、BIM演習において動画・VRによる応用までを学ぶ | 2 | 128 | 5 | △ | ○ | | ○ | | ○ | |
| 16 | ○ | | 卒業設計 | 2年間の学修成果を製作する | 2 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | |
| 17 | | ○ | 住宅設計演習 | 住宅設計の計画方法、設計図書の理解 | 2 | 64 | 2 | △ | ○ | | ○ | | | ○ |
| 18 | | ○ | プレゼンテーションⅠ | 各種課題の表現基礎、デザインソフトの基礎 | 1 | 64 | 2 | △ | ○ | | ○ | | ○ | |
| 19 | | ○ | プレゼンテーションⅡ | コンペ、コンクールへの挑戦、各種課題の応用表現・演出 | 2 | 64 | 2 | △ | ○ | | ○ | | ○ | |
| 20 | | ○ | インテリア | 家具造りの基礎、内装の表現方法 | 1 | 64 | 3 | ○ | △ | | ○ | | ○ | |
| 21 | | ○ | インテリアコーディネートⅠ | 設計図書からインテリア表現の基礎 | 2 | 32 | 1 | ○ | △ | | ○ | | ○ | |
| 22 | | ○ | インテリアコーディネートⅡ | インテリア表現応用、インテリアデザイン技能検定試験対策 | 2 | 32 | 1 | ○ | △ | | ○ | | ○ | |
| 23 | | ○ | 不動産 | 宅地建物取引士資格取得対策 | 1 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 24 | | ○ | 福祉住環境 | 福祉住環境コーディネーター資格取得対策 | 1 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | |
| 25 | | ○ | 色彩学Ⅰ | 色の組み合わせの法則 | 2 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|--|---|----------|-----------------------------|----|----|---------------|---|---|--|---|---|---|---|---|
| 26 | | ○ | 色彩学Ⅱ | カラーコーディネーター資格取得対策 | 2 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 27 | | ○ | 建設ビジネス学 | 技術者に必要なコミュニケーション、ビジネス文書作成 | 1 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 28 | | ○ | 建築総論Ⅰ | 設計総論 | 1 | 32 | 1 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| 29 | | ○ | 建築総論Ⅱ | 設計総論 | 2 | 32 | 1 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| 30 | | ○ | ワークショップⅠ | 建設業に必要な事柄を企業や設計者を招き、実務教育を行う | 1 | 32 | 1 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| 31 | | ○ | ワークショップⅡ | 企業や団体・機関などでインターンシップ等を経験する | 2 | 32 | 1 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| 32 | | ○ | 企業実習Ⅰ | 企業や団体・機関など実際の職場で働く模擬体験をする | 1 | 40 | 1 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 33 | | ○ | 企業実習Ⅱ | 企業や団体・機関など実際の職場で働く模擬体験をする | 2 | 40 | 1 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 合計 | | | | | 33 | 科目 | 2224 単位（単位時間） | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|---|--|-----------|------|
| 卒業要件：定められた教育課程を修得し、出席日数が出席すべき日数の3分の2を達すること。 | | 1 学年の学期区分 | 2 期 |
| 履修方法：卒業および進級に必要となる単位数・時間数の修得 | | 1 学期の授業期間 | 16 週 |

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。